

Title	高齢者ケアサービスにおける音声つづやきシステムによる実践知形成
Author(s)	平林, 裕治
Citation	
Issue Date	2014-09
Type	Thesis or Dissertation
Text version	ETD
URL	http://hdl.handle.net/10119/12293
Rights	
Description	Supervisor:井川 康夫, 知識科学研究科, 博士

氏名	平林裕治		
学位の種類	博士(知識科学)		
学位記番号	博知第160号		
学位授与年月日	平成26年9月24日		
論文題目	高齢者ケアサービスにおける音声つぶやきシステムによる実践知形成		
論文審査委員	主査 井川 康夫	北陸先端科学技術大学院大学	教授
	梅本 勝博	同	教授
	小坂 満隆	同	教授
	藤波 努	同	教授
	水流 聡子	東京大学	特任教授

論文の内容の要旨

日本だけでなく国際的に高齢化が進展し介護が必要な高齢者が増加していく状況において、高齢者の QOL を向上させるために介護の質と効率を向上することが社会的な課題の1つになっている。この課題を解決するために、福祉・介護分野で情報通信技術の活用が限定的であるという問題意識から本研究は始まっている。

高齢者の心身の状況は常に変化しているので、高齢者ケアサービスでは状況に依存した即興的な判断をするために実践知が求められる。そこで、報告・連絡やモニタリング情報を共有化する音声つぶやきシステムを用いて、ケアサービスにおける実践知形成の実態を明らかにすることを本研究の目的とした。ケアサービスにおける実践知形成に関する研究には、音声つぶやきシステムなどの情報通信技術を用いた研究はこれまでになく新規性がある。

提案した理論的モデルは2つの OJT で構成されている。ケアスタッフの音声つぶやきと音声つぶやきによる気づきから好事例を選定し、組織知として共有するオフサイト OJT と、ケアサービス中に音声つぶやきを遠隔でリアルタイムに感知して気づきを醸成する遠隔音声 OJT である。本研究では、オフサイト OJT と遠隔音声 OJT とが相互補完的に実践知を形成する独自の理論的モデルを提案している。

実務的含意には、通常は記録しないことでも音声つぶやきシステムであれば容易に記録でき、音声つぶやきから抽出する好事例の範囲が広がったことがある。また、好事例を率先垂範することにより実践知が組織内で循環することの有効性を実証した。

今後の課題には、音声つぶやきと位置情報や満足度を融合した評価指標により、好事例の選定方法を確立すること、現場情報や好事例から知識体系を整備する方法論を確立することがある。音声つぶやきシステムを用いて実践知を形成する方法には汎用性があり、他の用途への適応も可能である。

キーワード： ケアサービス、音声つぶやき、実践知、好事例、気づき

論文審査の結果の要旨

本論文は、高齢者ケアサービスの現場において介護者等のケアスタッフの報告・連絡やモニタリング情報を共有化する音声つぶやきシステムを用いて可能となる実践知形成についてのアクションリサーチに関するものである。高齢者は心身の状況が常に変化しているので、ケアスタッフは状況に応じて即興的に判断するための実践知が求められる。本研究ではケアサービスにおける音声つぶやきによる実践知形成に関する新規な理論モデルを提案し、実証実験を行って介護サービス現場での実務的有効性を検証した。

提案された理論モデルは2つのOJTプロセスで構成されている。ケアスタッフの音声つぶやきによる気づきから好事例を選定し組織知として共有するオフサイトOJTと、ケアサービス中に音声つぶやきを遠隔でリアルタイムに感知して気づきを醸成する遠隔音声OJTである。オフサイトOJTと遠隔音声OJTとが相互補完的に実践知を形成するという点に特徴を持つ理論モデルである。

実務的には、オフサイトOJTと遠隔音声OJTとにより、実践知の形成を加速促進するだけでなく、実践知の内容を豊かにすることができ、医療・介護分野での知の高度化にとっての有力な方法を提供できることが確認された。更に、好事例を率先垂範することにより実践知が組織内で循環するなど、付加的に組織にもたらされる効果も確認された。

高齢者ケアサービスにおいて先端情報通信技術を用いた実践知形成に関する研究はこれまで存在しない。本研究は、先端的情報通信技術を駆使して新たな仕組みである音声つぶやきシステムを構築し、その介護サービス現場での有効性を示した点に実務的有用性があり、このメカニズムを理論モデルの構築で説明した点に学術的新規性がある。

今後、日本だけでなく国際的に高齢化が進展し、医療・介護が必要な高齢者が増加していく状況において、音声つぶやきシステムを用いて実践知を形成する方法は、個々の事情に大きな差があり多様な対応が必要な医療・介護現場でのサービスの高度化を実現するための現場スタッフの教育や技能向上に資するところが大きく、世界的視野での未来社会に貢献できる。この点で本研究は社会的意義も大きい。

以上、本論文は、高齢者ケアサービスにおける新たな仕組みである音声つぶやきシステムによる実践知形成について、理論的にも実務的にも新規で有用な知見をもたらすものであり、学術的に知識科学に貢献するところが大きい。よって博士（知識科学）の学位論文として十分価値あるものと認めた。